

万博協会への質問書

私もメンバーである「夢洲の都市計画の変更を考える市民懇談会」(夢洲懇談会)は、7月末に下記の質問書を万博協会に送り、懇談を申し入れた。質問書の概要を紹介する。

1. 事業の進捗状況と課題について～「環境影響評価書」をふまえて

石毛事務総長が7月13日、記者会見で「海外パビリオン建設について参加国の代わりに発注する選択肢もある」と発言。この発言の事実関係を明らかにすること。この発言は万博の「SDGsへの貢献」に反する。日本の随意契約は会場建設費の高騰につながる。工事計画の遅れにより環境影響評価書の「環境保全計画」実行が困難に。持続可能な大阪・関西万博開催に向けた行動計画 ver. 1 についても2点確認したい。

2. 「大屋根」建設とアクセス不足

「大屋根」(リング)の建設が始まったが、「フローティング工法」によるものか。大量の木材はどこから調達するのか。万博後に全面撤去するが、SDGsに反しないか。万博アクセスの地下鉄延伸と道路整備の現状についての協会としての考えは。

3. 夢洲1区の土壌汚染問題

夢洲1区は、管理型最終処分場で基本的に「人が立ち入れない危険な場所」であるが、ここを会場に使う上での対策は。1区はダイオキシンをはじめPCB・水銀・ヒ素など有害重金属類を含む焼却灰・飛灰が860万トンも埋め立てられている。どのように対応するのか。夢洲1区北西部B地区には、3割のビニール袋に入ったPCBか。7月末で1万袋も投棄されている。国際基準に照らしても問題ないのか。野外イベント場等でのメタンガス、1区からの放流水について。

4. 万博工事に関連する労働問題など

運送業者の時間外労働、建設関連の労働者不足、工事現場での労働者規制についての責任体制など

5. その他 静けさの森の樹木、運営費不足時の負担問題など

夢洲懇談会は万博開催が決まってから、夢洲の都市計画の変更と環境アセスメントと関わらせ、夢洲へのIRカジノ誘致とともに万博についても提言してきた。博覧会国際事務局(BIE)に対して、夢洲での万博開催のリスクなどを手紙で訴えてきた。

万博開幕予定まで1年半余りとなり、万博の会場建設の遅れが連日報道されている。私たちが再三にわたり指摘してきたことだ。今回、あらためて万博協会に質問書を送り、懇談の場を申し入れたのも、私たちの活動の一環である。万博延期や撤退の意見も出るなか、万博協会の「機能不全」が伝えられ、回答や懇談が先になりそうなので、早めに質問書の骨子だけでも紹介したい。

(2023年8月12日)